

2024年 第8回 AJEMUN（全日本高校教育模擬国連）

令和6年8月6日、7日（火、水）の2日間、上記大会が実施されました。会場は東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで、本校からは1年生6名、2年生6名の計12名が参加しました。

「薬剤耐性菌への対応」を議題として、全国から集まった約600名の高校生が、一般議場3つ、初心者議場3つに分かれ、活発な議論を展開しました。

<活動のようす>





<参加生徒の振り返り:体験を通しての感想(進路とのかかわりも含む)>

- ・自分の進路を考える時には、多くの情報を得る必要があると感じました。この模擬国連ではリサーチ不足であり、議論の中でも知識不足が目立ちました。この時、どんな事でも事前準備をしていないとより良い結果にはならないと実感しました。これからはどんな進路選択をするとしても完璧でなくてもいいので、多くの情報に触れ、認識し、自分で考えていきたいです。
- ・大きな刺激を受けました。いろいろな人がいる中で、みんなでコンセンサスを目指して、話し合う中で、質の高い積極性を目の当たりにしました。模擬国連に参加する人たちは、日常生活でもポジティブに考え、何事も真剣かつ楽しく過ごしているんだなとひしひしと感じました。
- ・今回の会議に参加して、意見が合致する国もあれば、当然対立する国もあり、経済状況や医療体制などによってさまざまな立場があることが分かりました。これは実際の国連総会でも起こりうるのだと考えます。だからこそ今回は自国のポルトガルだけでしたが、色んな国の現状を知り、多面的に世界の課題について考えていくことが大切だと、改めて実感しました。将来国際関係の職業につくかは分からないけれど、独善的な考えに陥ることなく、全体の利益を踏まえ、客観的に物事を決めていきたいです。